

青銅合金 铸造用地金

JIS H 2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)
三重県安芸郡安濃町字田口暮2222-2
電話 059-268-2206(代)
FAX 059-268-1949
販売元

ミカゲ金属株式会社
大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115(代)
FAX 06-6244-3116
東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3143

63S・D粉 銅・真鍮粉

(株) アイコー

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市渋川町2-9-27
本社 (06) 4307-0600

三重県伊賀市西之沢162
伊賀アルミセンター (0595)45-6510

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
購読料 半カ年 44,100円(前納) 3カ月 22,050円

輸入合金スクラップ除き減少 は

・アルミニウム 橋本健一郎氏リポート②

【概況】九月前半は八月の米ISM非製造業景況指数は五八・六に上昇、予想の五五を上回ったこと、米の週間新規失業保険申請件数は三二・三万件に減少し予想の三三万件を下回ったこと、さらに二Qの米非農業部門の労働生産性指数確報値は前期比二・三%上昇に上方修正したことなどのプラス材料はあつたものの、米軍主導のシリアへの軍事介入草案が上院で可決されたことによる警戒感や、バーナンキ米連邦準備理事会(FRB)議長の後任にセマーズ元財務長官を指名する方向で最終調整に入ったことから金融緩縮小ペースが早まるとの見解から、LMEアルミニウム相場は下落、一、七五三ドル(現物後場買)と前月最終価格から一二ドル下落しての前半締めとなつた。後半はアメリカ、ロシアがシリアの核兵器廃絶に向けて法案で合意が難航していることや、九月のNY連銀製造業景気指数はプラス六・二九に低下、予想の九・一〇を下回るなどマイナス材料があつたが、サマーズ元米財務長官が米連邦準備理事会(FRB)次期議長の指名を辞退したのを受け、米国の緩和的な金融政策が長期化するとの見方や、FOMC後の声明で予測に反して金融緩和縮小開始が見送られたこと、イタリア連立政権崩壊の危機からのドル安を好感。

十月一日現在LMEアルミニウム相場(現物後場)は一、八〇八ドルと前半締めから五五ドル上昇してのスタートとなつた。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比七・六%減の六八万台

O. 四八七台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一二・四%増の三三二万台、三一五台。

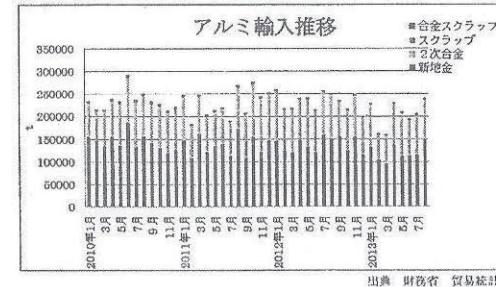
溶融亜鉛めつき鋼板工場

新日鐵住金はこの程、タイの子会社「新日鐵住金ガルバナイジング」が、自動車用鋼板にさび止めをする溶融亜鉛めつき工場の営業運転を始めたと発表した。タイでの自動車生産拡大に伴う鋼板需要の伸びに対応する。生産能力は年三六万トンで、今後二年程度でフル生産に引き上げることを目指す。

アルミニウム輸出はいずれも増加

輸入	6月	7月	8月
新地金	11万2736t	11万4718t	14万8001t
前年比	-6%	-98%	-1.1%
二次合金	7万7278t	8万5931t	8万7062t
前年比	-15.1%	-9.3%	-11.7%
スクラップ	489t	804t	613t
前年比	-29.8%	+62.1%	-6.6%
合金スクラップ	3273t	4082t	4299t
前年比	+15.7%	+51.7%	+57.5%

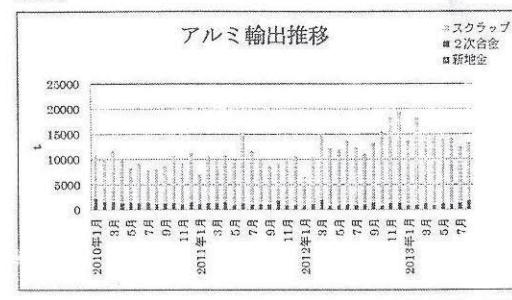
輸入推移



輸入は新地金が前年比一・八%減の一四万八、〇〇一t、二次合金が一・七%減の八万七、〇六二t、スクラップが五・六%減の六一三t、合金スクラップは五七・五%増の四、二九九t。

輸出	6月	7月	8月
新地金	30t	195t	188t
前年比	-74.1%	-17.7%	+9.7%
二次合金	1010t	1182t	1263t
前年比	+20.7%	+87%	+85.6%
スクラップ	13079t	11142t	11658t
前年比	+2.7%	-3.3%	+14.4%

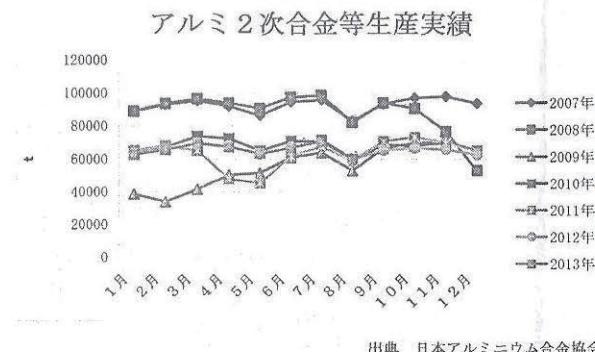
輸出推移



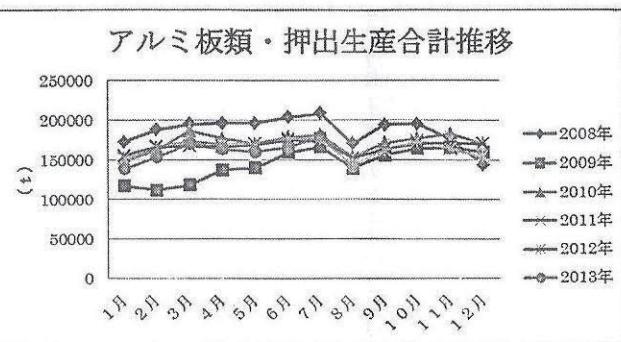
◆貿易指標
財務省貿易統計によれば輸出は、アルミニウム新地金が前年比九・七%増の一五八t、二次合金が八五・六%増の一、五六三t、スクラップが一四・四%増の一萬一、五五八t。数は前年比八・八%増の八万四、三四三t。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・八%増の八万四、三四三戸。

(一面より続く)



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績、前年比〇・三%増の六万〇〇九八tであった。(六面へ続く)



■前月の国内指標
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一・四%減の一四万一、一四一t。

アルミニウム圧延品生産減、一次合金微増

LME相場 米債務上限問題などが左右か

(二面より続く)

産回復基調から上昇との見解
【アルミ需給に関して】

九月はアメリカとロシアのシリアの核兵器廃絶に向けての法案で合意や、米連邦政府の債務上限引き上げ問題に一喜一憂した月となつた。

米国の強硬姿勢への警戒感や、米連邦政府債務引き上げが不能となつた場合の混乱への警戒感から。

自動車生産は前年比七・六%減の一ヶ月連続マイナス。乗用車九・二%減、トラック一・五%増、バス一一・七%増。

販売の方はついに前年超え。前年比一二・四%増。乗用車一二・七%増、貨物一〇・七%増、バス一三・三%増。

新設住宅着工戸数は先月に続き一二ヶ月連續増加の前年比八・八%増(季節調整済み前月比一・九%減)の八万四、三四三戸。今月も堅調な住宅関連。持家一一%増、貸家七%増と大幅増。

消費税導入前の駆け込み需要から。

自動車関連のアルミニウム合金生産は前年比〇・三%増と二ヶ月連続プラス。

圧延・押出品生産数は前年比一・四%減、二カ月ぶりマイナス。

圧延に関して、缶材は八%増。八月のビール系飲料はマイナスだったが(二・八%減)、

第三のビール、缶コーヒーが好調のため。輸出は五ヶ月連続マイナスの六・五%減。中国への輸出が三一二%減だったことからアルミ輸出は新地金が前年比九・七%増の一五八t、二次合金が八五・六%増の一、五六三t、スクランプが一四・四%増の一萬一、五五八t。

国内生産が低調だったことから新地金、二次合金、スクランプとも、大幅な円安を背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比一・一%減の一四万八、〇〇一t、二次合金は一一・七%減の八万七、〇六二t、スクランプは五・六%減の六一三t、合金スクランプは五七・五%増の一四、二九九t。

前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、スクランプは国内自動車生

%増の一ヶ月連続増加、持家一一%増、貸家七%増と好調。待望の自動車は生産が一二ヶ月連続前年割れの七・六%減。だがついに九月の国内販売台数が前年比一二・四%増と大幅増。販売増につられて生産が伸びるものほぼ確実で、住宅、自動車の二本柱が復活した今後、供給不足が拡大する可能性が高い。

【LME価格に関して】
今月は米債務上限引き上げ問題と米F.R.B.金融緩和縮小開始そしてイタリア連立政権崩壊懸念に伴う欧州ショックに左右される。

債務上限引き上げ問題は前回同様解決することは、ほぼ間違なく時間の問題。金融緩和縮小も発言が二転三転しておりマーケットも若干織り込み済みでは?

欧州ショックに関しては景気回復は進んでおりマイナスは限定期との判断。

それらを踏まえた価格は、債務上限引き上げによるドル安から、もう一段高の九月後半高値付近一・八五〇ドルを予測。

下値はF.R.B.による金融緩和縮小開始とイタリア連立政権の崩壊が起こった場合、九月最安値のもう一段安の一・七五〇ドル割れを予測。

スクランプ価格については前記条件によつてLME価格さほど大きく動かないとの予測の中、住宅、自動車販売の堅調や消費税増税前の駆け込み需要からの需給ひつ迫から〇・五円上昇するとの予測。

洋白板 据置き、他は上げに

関口富美雄商店十月積みの販価

「東京」㈱関口富美雄商店は、十月積みの燐青銅、洋白板の販価を次の通り決定したと発表した。(カッコ内は前月比)

▽バネ用燐青銅板二、三八六円(二七円上げ)▽燐青銅板二種二、一五六円(二四円上げ)▽燐青銅線二、三六五円(二五円上げ)▽快削燐青銅棒一、三〇六円(一八円上げ)▽バネ用洋白板二、三九七円(据置き)▽洋白板二種二、二七三円▽洋白板二種二、二七三円▽快削洋白棒一、六四五円(以上二円上げ)